

【砂原地域】

地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み

●漁協青年部によるナマコ資源の増大事業

(1) 水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）		関連資料
地域 MV における取組の位置付け	<p>【地域の目指す姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資源管理型漁業の推進 ○後継者対策と高齢者対策 <p>【主な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○漁協青年部によるナマコ資源の増大事業 	<p>取組場所</p> 
現状における取組実施の背景	<p>砂原漁協はホタテ養殖とスケトウダラ漁を二大太宗漁業としているが、近年のホタテへい死、回遊魚の減少等により漁獲量・漁獲高ともに減少している状況にある。そのような中、近年ナマコ価格の上昇により資源の枯渇が危惧されており、資源維持と増大を図り、漁業収入の安定を図るために取り組みを行っている。また漁協青年部が実施することで若い世代の資源管理の意識向上ややりがいをもたらすことができる。</p>	<p>【取組の様子】</p> <p>●青年部員による中間育成</p> 
取組により期待する効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ナマコ資源の増加 ・漁家経営の安定 ・若い世代のやりがいや資源管理の意識改革 	
(2) 取組内容・実施体制（Do）		
取組内容、方法、手順、実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・砂原漁協青年部、砂原漁協、渡島北部地区水産技術普及指導所、函館水産試験場、森町役場 ・漁協青年部による、親ナマコの採取・育成→種苗生産→漁港内の筏での中間育成→稚ナマコ採取→放流 ・渡島北部地区水産技術普及指導所、函館水産試験場による指導・協力 ・砂原漁協、森町からの補助 	<p>●青年部員による稚ナマコの回収作業</p> 
(3) 効果項目に対する評価（Check）		
効果目標の達成度評価	<ul style="list-style-type: none"> ・稚ナマコの放流数（R3:47,925、R2:7,000、R1:62,000、H30:400） 	
反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・採苗器の投入時期のタイミングを検討する必要がある。 ・例年よりも個体のサイズが小さかった。 	<p>●放流直前の稚ナマコ</p> 
(4) 取組の改善措置（Action）		
取組内容の改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・以前からの課題であった親ナマコの生け簀への移設時期については熟度を見ながら良いタイミングで行えた。 ・例年よりも全体的に個体サイズが小さく放流適正サイズまで成長させるよう改善したい。 ・生産数量は増加してきたが、まだばらつきが多いので安定生産するために種苗生産技術の向上を図りたい。 	
取組の実施に必要なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・現状では資金面が必要。 ・生産性を今後上げることが課題となるがそのためには設備投資への資金と生産に必要な人材の確保。 	

【砂原地域】

●出前授業・漁業体験・食育事業

(1) 水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）		関連資料
地域 MV における取組の位置付け	<p>【地域の目指すべき姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○砂原産水産物のブランド化と販売力強化及び次世代への継承 ○後継者対策と高齢者対策 <p>【主な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○砂原中学校生徒への出前授業・漁業体験 ○修学旅行生の受け入れ（ホタテ養殖についての研修、ホタテ昆布巾着づくり） ○ 	<p>取組場所</p>  <p>【取組の様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●刺し網体験 
現状における取組実施の背景	<p>砂原漁協はホタテ養殖とスケトウダラ漁を二大太宗漁業としており、例年、砂原地区のさわら小学校、砂原中学校に出前授業や食育、漁業体験を実施している。昨年はコロナの影響で事業ができなかったが今年度は中学生へ体験事業を通じ漁業を身近に感じてもらい後継者対策や魚食文化の向上を図った。また、今年度は町外からの学生等の体験学習等も行い、砂原産ブランドのPRと漁業普及活動を図った。</p>	
取組により期待する効果	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者対策 ・魚食文化の向上 ・砂原産水産物のPRと漁業への親近感の増加 	
(2) 取組内容・実施体制（Do）		
取組内容、方法、手順、実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・砂原漁協青年部、砂原漁協女性部、砂原漁協、渡島北部地区水産技術普及指導所、森町役場 ・中学生を対象に刺し網体験を実施し、実際に漁船に乗って刺し網漁を見学し、魚の網外しなどを行う。 ・町外の修学旅行生に対し、ホタテ養殖の仕組みの学習とホタテ昆布きんちゃくづくりを行う。 ・森町に訪れた学生に対しての漁業についての学習。 	<ul style="list-style-type: none"> ●陸上での網外し 
(3) 効果項目に対する評価（Check）		
効果目標の達成度評価	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年はコロナの影響で町内小中学校への事業ができなかったが今年度は中学生への事業を再開した。 ・新たな取り組みとして、修学旅行生や大学連携で訪れた学生への漁業学習を行った。 	
反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生への事業ができなかった。 ・関係部局との連携不足で連絡調整が足りなかった。 	
(4) 取組の改善措置（Action）		
取組内容の改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・教育機関と改めてコロナ対策などをしっかりと協議して今後拡充して実施したい。 ・観光部局と連携し旅行者や修学旅行生への対応もより多く進めていきたい。 ・荷捌施設の新設に伴い、新施設を生かした取り組みを行っていきたい。 	
取組の実施に必要なもの	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施に係る資金と人手。 ・コロナ対策としての予防グッズ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●修学旅行生へのホタテ養殖学習 